

Daily Report (号外)

～3月の米雇用統計について～

結果概要

米国労働省が4月2日に発表した3月の雇用統計は、市場予想を大幅に上回る結果となりました。非農業部門雇用者数は、前月比+91.6万人と市場予想(+66.0万人)を大幅に上回り、20年8月以来の大幅な増加となりました。前月分は+46.8万人(速報値+37.9万人)に上方修正されました。業種別では、新型コロナワクチンの普及で経済活動の正常化が一段と進むとの見方が強まったことで、娯楽・宿泊業が前月比+28.0万人(前月+38.4万人)、教育・接客業が同+10.1万人(同+5.7万人)と増加したほか、建設業が同+11.0万人(同▲5.6万人)増加しました。政府部門でも同+13.6万人(同▲9.0万人)と増加しました。失業率は6.0%と市場予想(6.0%)通りの結果となり、前月(6.2%)から改善しました。平均時給は前年比+4.2%となりました。

市場の反応

2日は株式市場やNY原油市場は祝日(グッドフライデー)のため休場となりました。米国債券市場は、市場が織り込む利上げ開始時期が早まったことから売られ、10年国債利回りは前日比+0.05%の1.72%程度で引けました。米ドル/円は、祝日中ということもあって動意に乏しく、横ばいで推移しました。



(期間)2019/12/31～2021/4/2 (出所)Bloomberg



評価・今後の見通し

新型コロナウイルスのワクチン接種の拡大や政府の追加支援策を追い風に労働市場が改善していることが確認される内容でした。

4月に入り、バイデン大統領はワクチン接種に係るインフラの整備を進めることや成人全員をワクチン接種対象者とするなど、接種を加速させる方針を示しており、今後更に普及拡大が想定されます。また、1.9兆ドル規模の追加支援策の現金・失業給付等が始まっていることを下支え材料に、この先数か月は労働市場の改善が続くと考えます。

一方、足元の米国における新型コロナウイルスの新規感染者数はピーク時に比べて低水準で推移しているものの、依然として毎日6～7万人前後の新規感染者数が発表されていること、失業率は足元6.0%とコロナ禍前の水準(3.0%程度)に比べて回復途上にあること等からFRBが目指す完全雇用の状態に至るまでには時間を要することが想定されます。

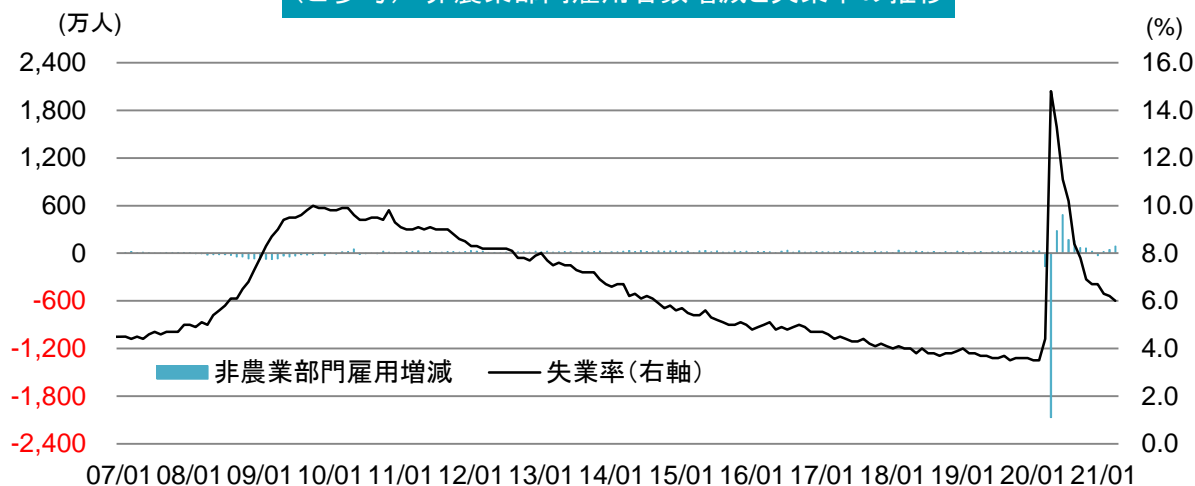
Daily Report(号外)

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所: 米国労働省

	20/10	20/11	20/12	21/1	21/2	21/3
非農業部門	68.0	26.4	-30.6	23.3	46.8	91.6
鉱工業部門	10.7	6.8	8.2	-0.7	-4.4	18.3
建設業	7.3	2.4	4.7	1.2	-5.6	11.0
製造業	3.2	4.1	3.5	-1.8	1.8	5.3
資源・鉱業	0.2	0.3	0.0	-0.1	-0.6	2.0
サービス部門	84.7	29.1	-35.6	12.9	60.2	59.7
卸売業	0.9	1.5	1.5	1.4	0.6	2.4
小売業	10.7	-0.2	3.0	1.9	2.8	2.3
輸送・倉庫業	7.1	12.4	-4.3	0.6	3.6	4.8
情報	-0.9	0.0	0.9	1.3	0.3	-0.2
金融	3.4	1.0	1.8	0.7	-0.9	1.6
専門・ビジネスサービス業	24.1	9.5	15.9	9.0	7.8	6.6
人材派遣業	12.1	3.9	6.2	10.0	5.0	-0.1
教育・保険業	8.3	4.3	-2.9	-1.4	5.7	10.1
娯楽・接客業	26.5	1.0	-49.8	-1.7	38.4	28.0
その他	-7.5	-4.2	-7.9	-8.8	-3.1	4.3
政府部門	-27.4	-9.5	-3.2	11.1	-9.0	13.6
失業率(%)	6.9	6.7	6.7	6.3	6.2	6.0
平均時給(前年比、%)	4.5	4.5	5.5	5.2	5.2	4.2

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移



(期間)2007年1月~2021年3月 (出所)Bloomberg